

YouTube時代の 動画撮影のコツ

北原 豊彦

新型コロナ・ウイルスの影響によって皆さんの会社でも、作業手順書や新人教育コンテンツを動画にまとめられないかといった話が出ているかもしれません。筆者は芸能プロダクションにおいて動画を制作する部門に属しています。動画編集者の立場から、動画コンテンツを作る際のコツを紹介させていただきます。

撮影前にチェックリストを作る

撮影をする上で重要なことは事前準備です。以下の項目を入れたチェックリストを作ります。

● その1：画像についての項目

▶ ホワイト・バランス

撮影する環境下では、光の色によって同じ白でも赤っぽい白や青っぽい白になってしまいます。ホワイト・バランス機能は光の色の影響を補正します。

▶ 画角

カメラ越しにどのような感じで撮影できているかを確認しましょう。内容によっては、何度もカメラを止めて撮影することもあると思います。その場合は毎回、画角の確認が必要です。撮影を終えていざ編集というときに、重要な部分がカメラからずれて切れてしまっていたり全く映っていなかったりすることを防ぎやすくなります。

● その2：音声についての項目

ホワイト・バランスなどの色味の調整ができれば、次は音声の確認です。音声は小さ過ぎると聞こえづらく、大き過ぎると音割れしてしまいます。これは、編集では修正が難しいです。ピン・マイクなどの外部マイクを使用する場合は、しっかりと音声録音できているかも確認しましょう。一度テスト撮影をして、実際にどのように聞こえるかを必ず確認しましょう。

屋外での撮影は天候によって状況が変わってきます。風が強いときにはマイクに風が当たり、「ゴォー」という音が入ってしまいます。これは編集でも修正はとて難しいです。風が強い場合はマイクにウィンド・ジャマーというカバーをかけて撮影するか、ピ

ン・マイクを使用しましょう。

室内では、エアコンや換気扇によるモータ音が入ってしまいます。止めておくことをお勧めします。

● その3：ムービー・コンテンツとしての項目

▶ 台本

撮影する内容、流れを書いたメモを準備しましょう。撮影中はどうしても撮ることに集中してしまいます。画角は大丈夫か、音声は大丈夫かなど気かけないといけなこともたくさんあります。

▶ シーンの尺

YouTubeにある動画もテレビ番組も、同じテーマでくられたシーンにまとまっています。1つ1つのカットがまとまってシーンとなり、シーンがまとまって1つの動画になります。このシーンの尺(時間)をどのくらいの長さにするかを決めておきましょう。

よくテレビなどで「撮れ高」という言葉を耳にされるとと思います。撮れ高とは実際に使用できる部分のことを指します。シーンの尺(時間)の目安を決めておけば、撮れ高がどのくらいになったかが分かり、撮影時間を効率良く使えます。また、シーンの時間を決めておけば、その時間内にまとめないといけなもので、コメントや演者の動きもまとまり、飽きにくい映像を撮ることにつながります。

他にもカメラのバッテリー切れやメモリ容量をチェック項目に入れておきましょう。

コツ①…照明をきちんとセットする

● 光の色と強さ

照明担当は、さまざまな状況下での対応が求められます。逆光の場合は、後ろから照らされている光よりも明るい光で照らさなければいけません。

背景にも気を付けましょう。例えば後ろの壁が白い場合と黒い場合とでは、照明の当て方も変わってきます。また、照明の種類によって色彩も変わってきます。ホワイト・バランスの調整で説明しましたが、光の種類によって同じ白でも赤っぽくなったり、青っぽくなった